



〈雑録〉獨逸ニ於ケル戰時經濟論叢ノ批評(2)

J. M. Keynes[著]
高島, 佐一郎(譯)

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 20(4):575-584

(Issue Date)

1916-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052510>



獨逸ニ於ケル戰時經濟論叢ノ批評 (其二)

商學士 高島 佐一郎

五

一九一五年一月ニ於テ刊行セラレタル戰時號第二卷ノ異彩ハ、エヂュアルト、ベルンスタインノ執筆ニ係カル「國際勞働組合ト歐羅巴戰爭」Die Internationale der Arbeiterklassen und der europäische Kriegノ一篇ヲ推スベシ。サラバ此ノ偉大ナル社會民主黨ノ領袖ノ宣傳セント企テタル目的ハ何ゾヤ。曰ク、開戰ニ對スル全歐ノ諸社會黨ノ行動ノ正當ナルヲ論證シ、且ヅ其ノ今次ノ行動ガ渠等ガ嚮キニ發表セル平和主義ノ宣言ト矛盾セザルコトヲ實證セントスルニアリ。此ノ事業ニ於テハ、渠ハ大イニ成功セリ。平和ノ維持ヲ目的トスル社會民主黨 Social democracyノ武器——一般的同盟罷工 General strike——ガ完全ナル失敗ヲ暴露シタルコトハ、渠レモ亦之ヲ承認シタリ。開戰草々直チニ確言セラレタルノ概アル經濟的竝ニ心理的諸勢力ノ複雜セル合成作用ハ、餘リニ強大ヲ極メ、到底多數民衆ヲ擁シテ確定的ナル且ツ直截簡單ナル一政策ヲ施スニ餘地ナカラシメタリ。一事ヲ以テ例示スレバ、勞働者ハ已ニ差薄マレル失業ノ恐怖ニ滿チタリシガ斯ル心理的狀態ガ一般的同盟罷工ヲ宣言スルニ就キテ、斷ジテ恰好ナル空氣ヲナスモノニアラザルヤ論ナシ。ベルンスタインハ高潮の辭令ヲ用キ、以テ八月始メノ數日ニ互リテ漂ヘル、混雜セル而カモ暗澹タル氣分ヲ叙述セリ。悲愴ノ熱調、即チ高唱スラク、無產階級者 proletariatノ領袖ノ客觀的宣言ハ、無慘ニモ此ノ秋、闔國ノ新

聞紙ヨリ一齊ニ且ツ卽時ニ湧立チ上レル國民の憤怒ノ銳キ喚聲ノ裡ニ消エ失セラレ了ンスト。此ノ危急存亡ノ秋ニ方リテヤ、渠等社會民主黨ハ四圍ノ壓迫ノ爲ニ、獨リ孤影悄然、渠等ノ運動ノ社會的意義ノ瞬間的不信ノ裡ニ孤立スルヲ、感ズルノ已ムヲ得ザルモノアリ。然カモ此ノ時、各般ノ情報ヤ稀レニ、運動ノ是非ガ疑惑ノ裡ニ包マレ、カノ平常主張セル戰爭ニ反對スルノ一般的同盟罷工ガ、畢竟ズルニ、外敵ノ侵害ヨリ其ノ祖國ヲ正當ニ防衛スルニ反對スルノ同盟罷工タラザルナキヤ否ヤヲ抗爭スルノ、何人ニトリテモ不可能ナルモノアリシハ爭フベカラズ。加之、宣戰ノ布告ト動員ノ開始ト戒嚴令ノ宣布トハ、闔國凡ユル事物ノ平和の秩序ヲ顛覆シ了リ、苟クモ非戰的政策ノ宣傳ガ總テ死刑ヲ以テ律セラレタルニ於テヲヤ。斯クテベルンスタインハ結論シテ謂ヒケラク、「一般的同盟罷工ノ手段ニヨリ、戰爭ニ抗爭セントスルノ思想、ゲニヤ過グル日、スツツトガルトヤコーベンハーゲンヤ其ノ他ニ於ケル社會民主黨大會ニ於テ主張セラレタルノ手段ニヨリテ戰爭ニ對シテ宣戰セント圖リタルノ思想ハ、無慘ニモ、一九一四年八月第一週ノ經驗ニヨリテ、其ノ到底實現スベカラザルヲ實證セラレ了レリ。斯クテ此ノ思想ハ將來凡ユル會議ノ討議目錄ヨリ削除セラレザルベカラズト。

然リト雖モ縱ヒ此ノ特殊ノ武器ハ、社會民主黨ノ統率者ノ掌中ニ毀ボタレタリトハ言ヘ、ベルンスタインハ仍ホ獨逸及ビ其ノ他ノ交戰國ニ於テ、同黨ノ領袖ヲシテ自ラ魴ヌルノ害惡ヨリ免ガレシメンコトヲ圖レリ。渠等ガ利用シ得タル數時間、卽チ舉國踵ヲ掲ゲテ戰ヒニ暴進セントシタル數時間前ニ至ルモ、渠等ハ仍ホ渠等ノ有スル凡ユル力ヲ舉ゲテ、如何ノ名分ニ於テモ開戰ニ出ヅベカラ

ザルヲ絶叫シタルナリ。寔トニ、マルクス及ビエンゲルスニヨリテ獨逸社會民主黨ニ遺贈セラレタリシ、露西亞及ビ露帝室ニ對スル傳統的憎惡ニモ拘ラズ、機關紙「進メ」Vorwärts ハ、八月一日ニ到リ露西亞ノ動員已ニ開始セラレタルニ會スルモ、記セヨ、此露西亞動員ノ開始コソ、中正ナリシ獨逸輿論ノ非戰論調ヲスラ撤回セシムルニ最モ強大ナル論辯タリシコトヲ、仍ホ斷乎トシテ、平和ヲ追求スルノ至誠且ツ熱烈ナル國際交渉ヲ斷絶セシムルノ根據タラシムベカラザルヲ宣明スルノ勇氣ヲ有シタルナリ。然シ乍ラ已ニ業ニ國敵ノ步ガ、國境ヲ踰エタリシコトノ、一般ニ確信セラレタルノ秋ニ及ンデヤ、獨逸國民ノ第三a thirdヲ代表セリト自稱スル黨派ト雖モ爭カデ、ソノ任務ガ祖國ヲ防衛スルニ存スルノ國人ニ對シ、積極的且ツ實際的ナル反抗ヲ試ムルノ責任ヲ採リ得ベキゾ。コレハ是レ渠ノ所論ナリ。思フニ、戰ヒニシテ一度自ラ參加セラル、所タランカ、ソハ常ニ總テノ交戰國民ニ取リテ防禦ノ爲メノ戰ヒタルニ至ルコトコソ、古往今來易ラザルノ戰爭ノ似而非推論タリ、似非理屈タリ、而シテ總テノ邦國ニ於ケル一切ノ平和論客平和協會永久ノ禍患タルベキモノナリトス。

六

ベルンスタインノ明カニモ撓マザル、國際主義、世界一家主義及ビ國際的和親主義ニ對スル愛着ハ、正サシク不幸ナル對照ヲ示スモノトシテハ、一九一五年三月刊行ノ戰時號第三卷所載、エトガ―、ヤッフェ教授ノ執筆ニ係カル、「我等ノ經濟生活ノ軍國主義化」Professor Edgar Jaffe. Die Militarisierung "unseres Wirtschaftsleben. ヲ推サザルベカラズ。姑ラク教授ノ所論ヲ窺ハンニ這般ノ戰

爭ハ、獨逸ガ其ノ輸入食糧品及ビ其ノ他ノ重要海外產物ニ一部ノ民命ヲ維ガザルベカラザルガ爲メニ危殆ヲ踏ミ、獨逸ガ其ノ軍力ノ未ダ完全ニハ光被スル所ナキ世界ノ各部分ニ資本ヲ投下シヲレルガ爲メニ危險ヲ冒シ、獨逸ガ其ノ臣民ノ一部分ヲシテ他日交戰國タルベカラントスルノ邦國ニ居住セシメタルガ爲メニ抑留セラル、ノ危殆ヲ感ズルコトヲ實證シタルモノナリトイフ。而シテ一見、這箇變難ノ如キ戰爭ガ、所在ニ國ヲ營ムノ今日ノ國際狀況ニ於テ通常事タリ、又少クトモ數々發生スベキノ常套事タルコトヲ豫斷シテ、ヤツフエ教授ハ即チ論ズラク、「獨逸國タルモノハ須ラク、斯ル一切ノ危險ヲ最少限度ニ低減セシムルノ目的ヲ以テ、爾今、國內の產業統一ト國際の獨立トノ大方針ニ遵ヒテ邁進シ依ツテ以テ自國經濟組織ヲ改造スルノ機運ヲ伸張セザルベカラズ」ト。教授ノ論ズル所ハ爰ニ止マラズ、即チ進ミテ其ノ思想ノ跡ヲ檢セン。玆ニ便宜ノ爲メニ、其ノ思想ノ要諦ヲ約言スレバ、渠ハ現在經濟組織ノ根蒂ヲ形チヅクレル箇人主義ヲ否認シ、營利主義ヲ排擠シ、資本主義ヲ擠撃シ、代ユルニ軍國ノ需要ニ應ズルヲ以テ唯一ノ目的トスルノ經濟組織ヲ夢ムルモノナリ。而シテ國際分業ノ一切ノ利益ヲ拋擲シテ、孤立經濟ニ籠ラントスルナリ。

英國ニシテ若シ速カニ征服セラレ、其ノ海上支配權ガ速カニ奪取シ得ラレタリシナランニハ、獨逸ノ組織ト發展トハ、復タ克ク私的資本制 *privatkapitalistische* ノ上ニ運轉セラレシナルベシ。然シ乍ラ此ノ計畫ハ遂ニ完成セラル、所ナカリキ。今ヤツフエ教授ノ所說ニ從ヘバ、今後戰ヒノ發展ハ聯合軍及ビ同盟軍ノ雙方ニ於ケル勢力全然平均シ、縱ヒ最善美ノ結果ヲ見ルトスルモ、非常ナル曠日彌久ノ爭鬭ノ後チ、恐ルベキ人ト金トノ犧牲ヲ拂ヘル後チニ至リテノミ、獨逸ハ始メテ勝利ヲ望

ミ得ベク、斯クテ此ノ種ノ戰勝ハ亦、必ラズヤ英國及ビ獨逸ノ比較的地位ヲ變ズルコトナクシテ終ラズンバアラズ。(茲ニ注意スベキハ、ベルンスタインノ論文ガ露西亞ヲ對象トシテ喋々シ英國ヲ閑却セルニ反シ、ヤッフエノ論說ニ至リテハ徹頭徹尾英國ニ關聯シ露西亞ヲ無視セルコトナリトス。然カモ佛蘭西ニ對シテ敵意ヲ挾マズ、亦利害ヲ感ゼザル如キノ一點ニ至リテハ、兩者其ノ揆ヲ一ニスルナリ。サハレ予ハ信ズ、全聯合國民中、最モ峻烈ナル反獨的感情ニ燃ユルノ國民性コソ、常ニ佛蘭西ニ見出サル、モノナルコトヲ。)是ノ故ニ、最モ年若ク、最モ健全ニシテ強國タル、隨ツテ最モ「未來ニ榮フルノ國民」„zukunftsreiche“ nationタル獨逸タルモノハ、須ラク先ヅ獨逸ノ軍事上財政上、將タ又産業上ノ諸勢力ノ一層長キニ互ルノ緊張 Anspannungニ耐フルベク、常ニ準備シラル所ナカルベカラズ。サハレ是レ決シテ興國ノ大氣象ニ富メル國民ノ元氣ヲ沮喪セシムルモノニハアラズ。ゲニヤ餘リニ容易キ戰勝ヲ得ルヨリモ、困難ヲ踏ミテ最後ノ勝利ヲ博スルヲ以テ、獨逸民族ノ國民性―拮据勉勵、儉約力行、不撓不屈及ビ組織的材幹 Fleiss, Sparsamkeit, Zähigkeit und Organisationstüchtigkeitヲ、最モ偉大ナラシムルノ所以タルベシト高調ス、サレバヤッフエ教授ニヨレバ或ル意味ニ於テハ、平和ニ處シテスラ仍ホ、産業生活ガ戰時動員化セラレザルベカラザルガ故ニ、吾人ハソガ永久ニ對シテ宣布セラレタルモノトシテ戰争ヲ看ザルベカラザルコト、ナル。而シテ之ガヤッフエノ「我が經濟生活ノ軍國主義化」ノ表題ヲ提ゲ、以テ疾呼シタル所以ナリトス。箇人主義ハ絶對ニ消滅セザルベカラズ。而シテ新シキ調節ノ制度ハ茲ニ樹立セラレザルベカラザルガ、斯ル制度ノ目的タルモノハ、ヤッフエ教授ガ數々力說セル如ク、箇人ノ最大幸福ニハアラズシテ、實

ニ最大限度ノ生産力 *Leistungsfähigkeit* ヲ實現スル目的ノ爲メニ、組織セラレタル國家ノ統一ヲ鞏固ナラシムルニアリ、サレバ縱ヒソガ個人ノ利害ニ影響スルトスルモ、個人的利益ノ上ニ働ク其ノ作用ハ、素ヨリ纔カニ間接的タルニ過ギザルナリ。

此ノ恐ルベキ主義ハ亦巧ミニモ、一種ノ唯心論中ニ織リ成サレタリ。國民又ハ民族ハ密接化セル統一體タルベク、而シテ事實上、古ヘプラトールガ民族ノ斯クナラザルベカラザルヲ道ヘル其ノ「偉大ナル人」*der Mensch im Grossen* タルベキモノナリ。殊ニ來ルベキ平和ハ、其ノ克復ト共ニ產業界ニ於ケル國家行動ノ觀念ノ鞏固及ビ發展ヲ齎ラスベシ、ヤッフエ教授即チ宣スラク「數年間否ナ數十年間、獨逸ハ何等ノ悔ヒモナク、其ノ現在ノ國敵ノ敵愾心ニ對シテノミナラズ、亦タ今日ノ中立國タル多數邦國ノ現ハシ來ルベキ將來ノ政治上及ビ產業上ノ反抗能力ニ對シテモ之ヲ喜ビ待チ以テ凡ユル形式ノ彈丸硝藥ヲ膳羞タラシムルノ用意ヲ備ヘザルベカラズ。是等狀況ノ下ニアリテヤ、近年全世界ヲ以テ市場ト看做スニ至レル所ノ海外放資、移出民及ビ一切ノ產業工業政策タル、國家ノ大ナル存立、獨立ノ存立ノ目的上、寔トニ危殆ニ過グルモノト謂フベシ。開戰以降今日ニ至リテ日ニ日ニ岷ビントシツ、アルノ舊キ產業組織ハ、言フマデモナク企業ノ利潤 *Unternehmensgewinn* ニ基ヅキ、企業的精神 *Unternehmensgeist* ニヨリ指導セラル、ノ一營利組織業 *Erwerbsorganisation* タリ。然ルニ此ノ二十世紀ノ新獨逸帝國ニ於テハ、利潤テフ考量ヲ交ヘザルノ一大勢力アリテ、依テ以テカノ一百餘年前、商人ノ國タル英吉利ヨリ襲來シ侵略シ來レルノ其ノ資本主義ノ制度ニ、最後ノヒ首ヲ擬セザルベカラズ。經濟的獨立ヲ目的トスル大勢力ヲ以テ、資本主義 *Kapitalismus* ヲ驅逐

セザルベカラザルナリ。ゲニヤ平和克復ノ曉キノ獨逸ハ、自國ノ經濟生活ヲ專ラ自國內ニ營ミ、自國民族ノ自活ハ自國民族ノミノ營ム所タルベク、又タ縱ヒ個人ノ幸福ニハ奈何ノ犧牲ヲ拂ハシムルモ、國家内ノ個人ナルモノ、到底國家ト離レテ意想シ能ハザル底ノ鞏固タル統一性ニヨリ一團トナレルノ獨逸民族ハ、或ル勢力ヲ助長シ促進スルガ爲メニ、黽勉、節儉、執着及ビ組織力ヲ、巧ミニ適用セザルベカラズ」ト。謂フ所ノ或ル勢力トハ果シテ何ゾヤ、恐ラクハ渠ノ高調セル生産力 Leistungsfähigkeit 以外ニハ、何モノモコレアラザルガ如シ。殆キカナ言ヤ、數千年、陶冶セラレ馴致シ來レル人性ノ重要部ヲ克ク悉ク改造シ得ザル限り、斯ル經濟組織ガ、民命ヲ之ニ維グノ戰ヒ終レル後チ、仍ホ維持セラレ完成セラレ永續セラルベキヤ否ヤ。ワレ遂ニ之ヲ知ラザルナリ。

七

學者書齋ノ裡ニ育クマレタル此ノ一場ノ夢物語ヨリ一轉、戰時ノ獨逸鐵道組織ニ關シ、大臣フェルケル Vöcher ノ記述中ニ示サレタル、實際上ノ獨逸ノ組織的材幹 Organisationsfähigkeit ノ人ヲシテ恍惚タラシメズンバ已マザル底ノ「ローマンチック」ノ物語ニ傾聽スルハ、必ズヤ讀者ノ感興ヲ惹ク所以タルベシ。戰時動員ノ始期ハ、恰モ數日ノ休暇日ヲ樂マントシテ遠ク外出ヲ試メル、將タ又タ中立國ニ旅行シツ、アリシ數千數萬ノ獨逸人アルヲ見出セリ。斯クテ動員開始ノ初二日即チ八月二日及ビ三日ニ於テハ、及ブ限り多數ノ獨逸人ヲシテ再ビ其ノ故家ニ立戻ラシメ得ベキガ爲メニ、完全ナル旅客汽車時間表ハ其ノ儘マ繼續セラレタリ。然カモ第三日ニ到レバ、忽チニ變リテ軍事汽車時間表トナレリ。軍事汽車ノ大イナル流れ——機關砲隊ト重砲隊トヲ除キタル、通常軍隊ノ各軍

團ノ輸送ニ必要トセラル、列車數ハ五十五連結列車ノ百二十單位ナルガ、此ノ軍事汽車ノ大ナル流れハ、獨逸ノ各部分ヨリ、一時間二十五哩ヲ超エザル平均速度ニテ、後ヨリ後ヨリト流れ出シ始メヌ。實ニ約三週間ニ互リテ、晝モ夜モ絶エ間ナク一汽車ハ他汽車ヲ追ヒテ走レリ。斯クシテ八月二十一日ニ至レバ、鐵道ノ軍事輸送 Eisenbahnaufmarsch ハ完結セラレタリ。之ト同時ニ私の旅客ノ需要ハ亦、幹線ニアリテハ一日五回、支線ニアリテハ同三回宛、一時間平均十五哩宛ヲ經濟速力ニテ馳走スルノ、地方的軍事鐵道ニヨリテ應ヘラル、所アリ。斯ノ如クニシテ八月二十二日ニハ獨逸皇帝ハ茲ニ正式ニ鐵道從業者ニ感謝ヲ表シ、渠等ノ「模範タルベキ行動ノ正確ト時間ノ正確」ヲ嘉賞セリト傳ヘラル。

八月二十一日ニハ始メテ普通鐵道營業ノ開始ヲ見タリ。此ノ時、所在ニ荷物ノ大遲滯アルヲ見出セリ。蓋シ地方軍事鐵道ヲ利用シテ旅行ヲ取急ギタル人々ハ、其ノ大荷物ノ大部分ヲ取殘サザルヲ得ザリシヲ以テナリ。斯クテ伯林ノ停車場ニハ、山ト積マレタル十二萬箇ノ大荷物アルヲ見タリ。然カモ此ノ荷物ノ山ガ順次ニ其ノ適當ナル宛先例ヘバ倫敦若クハ巴里ニ向ケ發送セラレ了レルナリ九月ノ始メマデニハ、寢臺車スラ伯林ト維納トノ間ヲ馳走シ始メタリシガ、九月二十一日及ビ二十日ニハ、鐵道各主任官竝ニ私設鐵道各支配人ノ總會開催セラレ、茲ニ平和時際ノ夫レヨリモ二割五分乃至五割方ノ回数低減ヲ行ハレタル、通常汽車時間表ノ公表セラル、ニ至レリ。然カモ九月二日、實ニ最初ノ戰時動員後正サニ三箇月ヲ閱ミセル九月二日ニハ、新汽車時間表改正ノ行ハル、ニ至レルアリ、一般乗客ハリン Lille ヨリ ロッシン Lodz ニ至ルマデノ通シ乗車券ヲ購ヒ得ルニ至レリ。

是レ寔トニ驚嘆スベキ動員完成ヲ以テ許サレザルベカラズシテ、斯カル組織的材幹ノ豊カナルモノアルハ、慥ガテ獨逸人ガ全世界ノ嘆賞ヲ購ヒ得タル所以ナリトス。

八

其ノ他ノ論說ハ總テ第二次的ノ重要ヲ有スニ過ギズ。一九一五年一月發行ノ第二卷ニハ、埃匈國ニ關スル二篇ヲ發見ス、一ハフエデルン Walther Federn ノ「戰時ニ於ケル埃匈國ノ貨幣及信用業」、他ハペレルス Dr. Emil Perels ノ埃匈國ニ於ケル戰時經濟統計ナリ。共ニ値ヒ尠ナシ次ニレーデル博士ノ一論文「獨逸ニ於ケル戰時期間ノ糧食補給調節策」ハ、一九一四年末日マデニ、糧食補充ノ調節ヲ目的トシテ施行セラレタル、政府ノ各般手段ヲ敍シテ太ダ詳カナリ。戰時號第二卷及ビ第三卷ニハ、其ノ或ルモノハ最も高キ權威ノ親シク執筆シタルモノニ係カルノ、諸外國ニ關スル數篇ヲ載録スレドモ、何レモ特ニ注意スルノ要ナケレバ、左ニ其ノ筆者及ビ表題ノミヲ掲グルニ止メン。

ベンヤツクス、歐洲戰爭時期ノ影響ノ下ニ立テル北米合衆國ノ經濟。 Ludwig Benlix. Die amerikanische Volkswirtschaft unter dem ersten Einfluss des europäischen Krieges.

カウフマン、戰時ニ於ケル佛蘭西ノ財政上並ニ經濟上ノ地位。 Dr. Eugen Kaufmann. Die Finanz- und Wirtschaftslage Frankreichs in Kriege.

ギガツクス、瑞西ノ經濟上ノ戰時動員。 Dr. Paul Gyga. Die wirtschaftliche Rüstung der Schweiz.

ミヘル、開戰起頭ノ數箇月ニ於テ伊太利ニ及ボセル國際戰爭ノ經濟的影響。 Robert Michels. Die wirtschaftlichen Wirkungen des Völkrieges auf Italien in den ersten Monaten.

メツシ、和蘭ノ經濟ニ對スル大戰亂ノ今日イデノ影響。 Dr. Theodor Metz. Der bisherige Einfluss des Krieges auf die niederländische Wirtschaft.

グリエンフェルト、コラルニシク、戰時ニ於ケル露西亞ノ國民經濟。 Dr. Judith Grünfeld-Cornick. Die russische Volkswirtschaft

im Kriege.

ダスチンスカ、ホリンスカ、開戦間際ノ波蘭ノ經濟的及ビ政治的地位。Dr. Zofia Daszyńska-Golińska. Die wirtschaftliche und politische Lage Polens bei Ausbruch des Krieges.

若シ夫レヤツフェ教授ノ筆ニ成ラントスルヲ、再度豫告セラレタル、英國ニ關スル一論說ハ未ダ仍ホ公ケニセラル、ニ至ラズ。

縷々述ベ來リシ、此ノ三卷ノ「社會學及社會政策論叢」戰時號ヲ閱ミセル、英國一般讀者ノ概括的感想、ソモ果シテ何ゾヤ。予ノ推測ニシテ幸ヒニ大過ナクンバソハ概テ、獨逸國及ビ獨逸民族ノ往キ方タル、ワガ新聞紙ガ催眠セシメントスル如クニモ繰返ヘシ繰返ヘシテ力說セル如クニハ、他ノ交戰國及ビ交戰國民ノ夫レト、爾カク著シク異ナレルコトナキニ、存セザルベカラズ。吾人ノ信念ニ一般ニ吹込マレタル獨逸ノ大イナル神話ハ、無慚非情ノ巨人ニ運轉セラル、超人的機械ノ夫レナラズンバアラズ。機械ハ優秀ナルベシ。サリナガラソハ曩キニ、沈黙ノ帳リニテ深ク隱蔽セラレシトキ、爾カアラント妄信セシメタリシ如クニハ、爾カク圓滑ニ運轉スルコトナキモノニ似タリ。加之、其ノ運轉士自ラスラモ畢竟、戰前ニ吾人ガ斯クモアラント想像シタリシモノト、格段ニ相異セルモノアルヲ見ザルナリ。此ノ批評紹介ノ一篇ニ對スル、經濟學者中稀觀ノ所タル熱腸撓マザルノ國家至上主義者獨逸經濟獨立論者、ヤツフェ教授ノ所見即チ奈何。(四、十二、十一、稿)